

令和8年度「健やかな体」育成プログラム

学校番号：25003

学校名：旭小学校

令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 結果

分析

<p>体力・運動能力 <男子></p>	<p>○全国平均の記録を上回った種目 立ち幅跳び ※昨年度に比べ上回る種目が減っている。</p>	<p>○全国平均の記録から下回った種目 握力、ソフトボール投げ、上体おこし、長座体前屈 反復横跳び、20mシャトルラン、50m走 ※昨年度に比べ下回る種目が増えている。</p>	<p>男子も女子も全国平均に比べ記録が下回る（偏差の開きが2.1以上の）種目が多かった。その中でも特に、20mシャトルランの結果が著しく下回っている。普段の体育授業から2分間走などを積み重ね、持久力向上を目指し計画、実施する。</p>
<p>体力・運動能力 <女子></p>	<p>○全国平均の記録を上回った種目 50m走、ソフトボール投げ ※昨年度に比べ上回る種目が減っている。</p>	<p>○全国平均の記録を下回った種目 上体起こし、立ち幅跳び、反復横跳び、握力 20mシャトルラン、長座体前屈 ※昨年度に比べ下回る種目が増えている。</p>	<p>運動時間や運動への関心が男女ともに高い傾向にある。子どもたち一人ひとりの目標をしっかりとみせ、運動や体育科の学習に取り組むなど、子どもたち自身が、伸びや高まりを実感できるような仕組みづくりが必要である。</p>
<p>運動・スポーツへの意識、 運動習慣</p>	<p>「運動やスポーツをすることが好き」の項目に「好き」「やや好き」と回答する子どもの割合 男子:100% 女子:100%</p>	<p>「運動やスポーツを通じていろいろな人が集まって交流したり、つながりや一体感を感じたりすること」の項目に「ある」「ややある」と回答する子どもの割合 男子:81.8% 女子:72.7%</p>	<p>授業以外での運動時間にもかなりの個人差が見られる。体育科の授業の中で、より運動の楽しさを感じられるよう協働的に運動に親しむ機会を増やす。</p>

三つの取組

①体育・保健体育等の授業の充実

②授業以外で子どもの運動機会を創出する取組

③子どもが自らの健康づくりを図る取組の充実

具体的な取組

☆課題探求的な学習、スモールステップやICT（一人一台端末等）を活用した個別最適な学びの推進、充実

- 系統性を重視した体育科の指導の充実（指導方法、専科指導体制等）を図り、運動への意欲を高める。（最重点）
- 体育授業の中で友達と協力する機会を設け、一人一台端末、学びのサポーター等を活用した個別最適な学びの充実を図り、自らの伸びを感じ、運動の楽しさに触れる機会を増やす。
- コンサドーレ、レバンガなど、プロスポーツチームの外部人材活用を図り、運動への意欲をより高める。

☆三間（^{さんま}仲間、時間、空間）の創出により運動機会の充実を図る取組

- 「マット・跳び箱週間」では、用具の常設により運動時間を増やし、休み時間も自主的に練習可能な環境を整える。また、異学年混同の割当て、より運動する仲間を増やせるようにする。
- 全校共通の「縄跳びカード」を作成し、自身の伸びや高まりを可視化できるようにし、体力づくりへの意欲をより高める。
- 体を動かす朝活動「はつらつタイム」で、体育科の授業外でも、様々な体の動きに継続的に慣れ親しむ。そして、スポーツテストと連携して自身の伸びや高まりを感じ、運動の楽しさを味わえるように工夫していく。

☆各教科等の内容を関連付けた健康教育の推進

☆外部講師の活用など家庭・地域との連携

- 養護教諭と担任が連携した健康教育（食育と健康）や保健指導を推進する。
- 健康への意識を啓蒙し続け、日常における「手洗い・うがい」「換気」「栄養のバランス」の大切さを、子どもたちに引き続き実感させる。
- 「健やかな体」をつくる生活習慣の定着のために、「さっぼろっ子『学び』のススメ」や「旭スタンダード」などを活用し、子どもの指導観を家庭とも共有し、より一層の連携を図る。

家庭・地域との連携・協働

- 保健体育の評価規準に基づく学習状況評価結果の活用（日常の実技テストや観察等）
- 児童アンケートや保護者アンケートの活用
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査やスポーツテスト結果等を活用
- 学校評価および学校関係者評価委員会で出された意見の活用
- おやじの会（PTA）による、児童・保護者・教職員を対象とした運動イベント「旭ボールパーク」等の推進